

第2回京都市洛西地域公共交通会議 摘録

日 時：令和5年3月6日（月）午後2時～午後4時
場 所：ホテル京都エミナース 銀閣の間
出席者：別紙出席者名簿のとおり

1 開会

○ 事務局（会議の諸注意および配布資料の確認）

○ 委員紹介

— 事務局から京都市洛西地域公共交通会議委員の紹介 —

2 議題

(1) 「京都市地域公共交通計画」の策定に向けた状況について

○ 事務局

（資料1に基づき、説明）

○ 藤本委員（福西自治連合会）

本会議では、環状ネットワーク構想を念頭において議論するのか。

○ 事務局

本市の西部・南部と周辺自治体を含む地域を結ぶ環状ネットワーク構想は、広域的な都市圏として発展させることを目指し、地域の活性化と交通アクセスの向上を図るものであり、20年・30年先を見据えた長期的なものである。本会議では、交通事業者が厳しい経営環境である中、まずは現行の公共交通網をどのように維持・確保していくのかを議論していきたい。

○ 藤本委員（福西自治連合会）

将来に向けた施策を京都市には検討してもらいたい。

○ 宇野会長（京都大学）

市広域かつ長期的な取組については、洛西地域公共交通会議の議論も踏まえ、京都市地域公共交通計画に盛り込んでいきたい。

(2) 敬老乗車証制度の利便性を高めるための見直し（案）について（報告）

○ 事務局

（資料2に基づき、説明）

○ 平山委員（ヤサカバス）

今回の見直しにより、ヤサカバスを新たに利用できるようになるので、地域の皆様に御利用いただきたい。

民営バス敬老乗車証の交付金は、利用実績（乗車回数×運賃）ではなく、見込利用回数や運行距離等を基に事業者ごとに交付されると聞いており、交付金額が利用実績に見合わないことも考えられる。今後、利用状況を注視していきたい。

○ **片岡委員（西京区自治連合会、新林学区自治連合会）**

「民営バス敬老乗車証の適用地域の拡大」は、住んでいる地域に関係なく、どの民営バスでも利用できるのか。

○ **事務局**

お住まいの町ごとに利用できるバス事業者、路線が決まっている。民営バス敬老乗車証にバス会社名、区間が記載されると聞いている。

○ **足立委員（京都府タクシー協会）**

敬老バス回数券の事業費見込9億円は、各事業者に配分されるという認識で良いか。

○ **事務局**

事業費見込9億円は、敬老バス回数券の対象者を約9万人と想定した数値である。洛西地域を運行する事業者の場合、回数券綴り冊当たりの額に交付実績を乗じた金額を保健福祉局から交通局へ一括交付し、交通局が各バス会社に着札枚数から精算し、交付金を配分することになると聞いている。

(3) 洛西地域における公共交通の現況・課題について（意見交換）

○ **事務局**

（資料3に基づき、説明）

○ **児玉委員（京都市交通局）**

いつも市バスを御利用いただき、感謝申し上げます。

市バス事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度決算で全74系統のうち、黒字は4つの系統に留まるなど、依然として厳しい経営環境にある。そうした中でも、市民の皆様の生活の足を将来に渡って守っていくため、今年度、学識経験者、市民代表者をはじめ、幅広いメンバーで構成する「京都市バスの路線・ダイヤの在り方に関する検討委員会」を設置した。これまで5回の議論を重ね、今後、具体的な運行計画を検討するに当たっての基本となる考え方、視点、取り組むべき項目等を取りまとめているところである。

洛西地域を運行する4つのバス事業者が力を合わせて、引き続き、生活の足を担っていきたいと考えている。地域の皆様の利用があつてのバス事業であり、御利用をお願いしたい。

○ **片岡委員（西京区自治連合会、新林学区自治連合会）**

公共交通はまちづくりと密接している。洛西地域は公共交通（バス路線）が充実しているにもかかわらず、人口の減少が進んでいる。これは、若い世代が新たに移り住んでこないためであり、洛西地域の活性化には、こうした観点からの取組が重要である。

20－30年先ではなく、洛西地域に希望が持てるような公共交通のより近い将来のビジョンを今、見せてほしい。洛西地域にもっと人が集まることで、活気を取り戻したい。

○ **藤本委員（福西自治連合会）**

洛西ニュータウンの課題の解決に向け、例えば、鉄道駅と地域とを結ぶ新交通システムが近いうちに整備され、利便性が高まるなどの見通しがあれば、若い世代が地域に魅力を感じてくれるのではないかな。

民営バス敬老乗車証の適用拡大は、高齢者にとっては便利になるが、若い世代は何も変わらない。若い世代にもメリットとなる施策を考えていただきたい。

洛西地域の活性化に向け、西山地域の観光資源を巡るバス路線を新たに運行し、観光客を呼び込んでほしい。

○ **小石委員（西京区自治連合会）**

民営バス敬老乗車証の適用拡大に伴い、バスの利用が増えることを期待するし、若い世代にもこうした取組が広がればと思う。

若い世代が使いやすいバス路線を検討してほしい。鉄道駅へのアクセスの充実がポイントである。バスは乗り換えることで、より便利に利用できる。乗り換えが簡単にできる、また、乗り換えることで運賃が安くなるような仕組みを作ることで、バスの利用がもっと増えると思う。

○ **能登委員（西京区地域女性連合会）**

京都駅から洛西ニュータウンまでバスで約40分掛かる。難しいことは承知しているが、急行バスのようなものがあればより便利になると思う。

○ **事務局**

地元の皆様から御意見をいただき、感謝申し上げます。

まちの活性化、特に若い方にもっと住んでもらえるまちづくりに期待されていることが分かった。京都市としても洛西地域を魅力あるまちにしないといけないと考えている。その一つとして、公共交通がある。例えば運賃制度の共通化など、洛西地域にふさわしい公共交通について、この会議を通して議論してまいりたい。

○ **栗山委員（京阪京都交通）**

人口減少、高齢化、コロナ禍等で厳しい経営環境にあるなか、事業者同士が連携を図ることで、利用者にとっては利便性、事業者にとっては生産性を向上

させる取組ができれば良いと思う。

民営バス敬老乗車証の適用拡大は、こうした取組の一つだと感じた。今後の運賃制度を考えるうえで、非常に大きなヒントになると思う。

○ 野津委員（阪急バス）

当社の大原野線については、この間、収入・利用者が減り続ける中、他地域の黒字路線の利益を同線の赤字に補填する内部補助を行いながら、何とか輸送規模を維持してきたが、3年前に減便せざるを得なくなった。その後も利用状況は厳しく、利用状況に合わせ、輸送規模の適正化を行う必要があると認識している。

京都市地域公共交通計画協議会の資料（現状と課題）に、市民の意識として「公共交通を維持するには、自分ごととして捉える必要がある」との記載がある。洛西地域においては、地域が主体となって、市バ斯特西4号系統の利用促進の取組が行われており、こうした取組を洛西地域、全市的に広げていくことが大切である。

○ 平山委員（ヤサカバス）

前回の会議で洛西地域の買い物利便の話があったが、当社において、そういった面で事業計画を工夫できないか検討している。

どのようにまちが再生されるか、都市計画が交通事業者に与える影響は大きい。短期的には、既存のバス路線・ダイヤをどう維持するかを考えることにはなるが、中期的には、公共交通をまちづくりの中に位置付けて考えていくことが重要である。

バスの事業計画については各事業者が、都市計画については京都市が、それぞれ責任を持って進めていくものとする。

○ 木原委員（京都運輸支局）

コロナ禍でバスの利用者数が減少している状況下で、洛西地域は充実したバス路線網を維持していると思う。民営バス敬老乗車証の適用拡大を機に、更なる利便性の向上、事業者間の協力を推進してほしい。

バス・タクシーでの感染リスクを避けて利用しない人もいるが、バス・タクシーは車内換気・消毒、運転手の健康チェック等、感染防止対策をしっかりと行っている。公共交通は安心・安全であることをPRしてほしい。

○ 山中委員（京都市西京区役所洛西支所）

民営バス敬老乗車証の適用拡大、敬老回数券の導入で、地域の公共交通利用が増えると期待しているが、今後は、通勤・通学利用者向けの施策を進めていくことが求められる。運賃のシームレス化に加え、利便性の観点から鉄道駅と洛西バスターミナルとを最短で接続する路線（現行の路線は、鉄道駅から洛西ニュータウンの各地域を経由してからバスターミナルに入る。）も検討いただきたい。

洛西地域外から新たに人を呼び込むことが重要である。世代の循環を促進し持続可能なまちをつくることが、公共交通の利用者数の確保（一定の需要）につながるものとする。

○ 上田委員（京都市西京区役所）

洛西地域から桂駅の路線は西京区本所管内を通る。バス路線・ダイヤの見直しに当たっては、本所管内の利便性も考慮していただきたい。

向日市において、阪急洛西口駅の西側でまちづくりの計画（向日市阪急洛西口駅西地区土地整理事業）がある。新たに人の流れが生まれると思うので、こうしたことも踏まえておく必要があると考える。

○ 矢内委員（京都市歩くまち京都推進室）

公共交通とまちづくりは密接に関わっており、洛西地域の活性化に向けて、都市計画局では、都市計画、住宅政策、交通政策の複数の部門で検討を進めている。地域外から人を呼び込むには、買い物の環境や教育・医療・働く場所等に加え、公共交通は大きな要素の一つであると思う。民営バス敬老乗車証の適用拡大に伴い、シームレスに利用できるようになる。まずは、こうした運賃制度の見直しを若い世代にも広げていかなければならない。そのうえで、事業者間の輸送力の配分、運行ルートに課題があるのであればどう見直すのか、洛西バスターミナルの活用などの議論を進めていきたい。

○ 小石委員（西京区自治連合会 会長）

洛西地域のバスは、朝は鉄道駅方面、夕方はニュータウン方面の利用が多いが、反対方面の利用が少ない。これは「住むことだけを考えたまちづくり」を進めてきた結果であり、今後は「職住近接」の考えを取り入れ、根本的にまちの在り方を見直していくことが必要である。現状のままだと、バスは収支が厳しい状況のままだと思う。

○ 井上委員（龍谷大学）

子育て世代のライフスタイルにあわせて、まちづくりを変えていかないと移住してもらうのは難しい。

民営バス敬老乗車証の適用範囲が拡大されるが、敬老乗車証をお持ちの方は、今のうちに、事業者の垣根を越えて、「バスはバス、どのバスでも利用できる」という意識を持っていただくことが重要。いつもと違うバスに乗るというチャレンジをして、次の世代にもバスは便利とPRしてほしい。

○ 宇野会長（京都大学）

地域の皆様から、まちづくりに踏み込んだ御意見を盛んにいただいた。こうした御意見や交通事業者間で協力していこうという機運、これらをうまく活用しながら、洛西地域の公共交通をどう盛り立てていくかが重要である。

民営バス敬老乗車証の適用拡大に伴い、事業者間の連携を深められる可能性

が高まった。世代間のバランスをどう取っていくか、また、子育て世代のバスの利便性をどう高めるかを議論していきたい。短期的、中長期的という期間ではなく、この会議においては、目の前の課題にどう対応していくかという取組と、すぐできるか分からないが実現させたいという挑戦的な取組（洛西地域（西京区）の目玉となる可能性もある）とに分けて議論を進めていきたい。

(4) 洛西地域における取組について（報告）

○ 事務局

（資料4に基づき、説明）

○ 藤本委員（福西自治連合会）

市バス特西4号系統の利便性を地域にPRする利用促進活動を継続して実施している。

○ 児玉委員（京都市交通局）

地域の皆様の取組を力強く感じている。バス路線は沿線の皆様のお力添えがあってのものである。ぜひ、引き続きの御利用をお願い申し上げます。

(5) 交通事業者からの報告

○ 児玉委員（京都市交通局）

令和5年4月1日から京都 地下鉄・バスICポイントサービスを開始する。乗継ポイントや利用額ポイント等が付与されるサービスであるので、御活用いただきたい。

○ 栗山委員（京阪京都交通）

3月18日に通学路線のダイヤ改正を予定している。生活路線は、感染症対策が緩和されることを踏まえてほぼ現行通りの運行体制を維持することとする。

○ 吉田委員（西日本旅客鉄道）

3月18日ダイヤ改正では、京都線は運行本数を維持し、大きなダイヤ改正は行わない。京都府内では、奈良線の一部区間で複線化を行う。

洛西地域の活性化に向け、アーバンネットワーク（京阪神都市近郊区間（関西エリア）を指す愛称）のプロモーションで協力できると思う。一足とびに居住者を増やすというのも難しいと思うので、まずは洛西地域を知ってもらうため、まちづくり、観光等の取組について、駅でのポスター掲示、チラシ配架に協力させていただきたい。

○ 飯田委員代理（阪急電鉄）

昨年12月17日に京都線・神戸線・宝塚線でダイヤ改正を実施した。コロナウイルス感染症の影響による在宅勤務、時差出勤導入、夜間の利用動向等、

鉄道利用に対するニーズが多様化したことに対応した。

京都線に関しては、休日の大阪駅 21 時・22 時発の便を 10 分間隔から 12 分間隔に変更し、最終時刻を一部変更した。また、種別を「快速急行」から「準特急」、「快速」から「急行」に変更した。急行については、新たに西京極駅に停車するようになった。

3 その他

○ 矢内委員（京都市歩くまち京都推進室）

洛西地域の活性化に向けて、今後、全庁を挙げてしっかりと取り組んでいく。その中で、運賃制度のシームレス化にまずは取り組むべきだと考える。事業者間の経営に関わることでもあるので、歩くまち京都推進室が調整役となり、しっかりと進めてまいりたい。

○ 井上委員（龍谷大学）

来年 4 月に改善告示基準が改正されることに伴い、バス運転士の休憩時間や拘束時間が見直されるため、現行のシフトでは運転士が不足することが見込まれる。洛西地域は 4 事業者で運行しているので、事業者間でのダイヤ調整等、共同経営するイメージで対応されることを期待する。これが洛西地域の持つポテンシャルである。シームレス化が実現した際、地域全体が「どれでも乗れるね」という意識になっていることを願う。

○ 宇野会長（京都大学）

地域の皆様からまちづくりに踏み込んだ意見や、事業者から協力体制の意見を伺えた。今後、これらを上手く活用し、洛西地域の公共交通をどう盛り立てていくかが重要だと思う。

4 閉会

○ 事務局

来年度に第 3 回会議の開催を考えている。
具体的な日程は、改めてお知らせする。